

幼児期のメディア活用のはじまりは何からですか？

基本は操作スキル

保育でのメディア活用における子どもの情報リテラシーは“メディアで楽しく遊ぶ力”と言えます。すなわち、パソコンやデジタルカメラなどを普段の遊びの中で活用することを意味します。

例えば、パソコンでお絵描きするためには、マウスの持ち方などを学び、操作スキルを身に付けたいといけません。「えっ、そんなことから教えるの?」と思われるかもしれませんが、デジタルカメラで撮影をするときも、シャッターボタンの位置や撮影した写真の見方を、まず最初に保育者が子どもに解説します。操作の基本をしっかりと身に付けておくことが大切です。子どもはある程度の基本操作が身に付くと、いろいろと教わっていない操作を試行錯誤していきます。「これを押すとこうなるんだ」という新たな発見も生まれます。

ルールを理解して遊ぶ

パソコンやデジタルカメラとは異なり、テレビ番組やビデオ映像の視聴は子どもが基本操作を身に付けるものではありません。流れてくる映像からいろいろな情報を得て、読み解き再現しようとしています。子どもがパソコンやデジタルカメラ、テレビ番組の映像などに触れることで、内容や仕組みに興味・関心を持ち工夫して遊びはじめます。“メディアで楽しく遊ぶ力”には、操作スキルだけではなく、守るべき約束事を子どもと一緒に決めて、みんなで守ることも含まれます。パソコン利用のルールや、利用前には手を洗う、おしゃべりしないなど園ごとにルールが決まっています。保育者や友達の話に興味や関心を持つことが大切です。

保育でのメディア活用を考えると、まず最初に子どもの情報リテラシーを育み、約束事を守る等のルール習得を含めた指導計画を考えてみましょう。



幼稚園教育要領 第2章 ねらい及び内容

- 言葉(1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心 をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
 環境(2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
 環境(7) 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

保育所保育指針 第3章 保育の内容 1 保育のねらい及び内容

- 人間関係① 友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする。
 人間関係② 共同の遊具や用具を大切に、みんなで使う。